

公益社団法人 日本地震工学会 第5回理事会議事録

A. 日 時 : 2013年11月13日(水) 17:00~20:45

B. 場 所 : 建築会館 304会議室

C. 出席者 : (会 長) 安田進

(副 会 長) 当麻純一、山崎文雄、福和伸夫

(担当理事) 福喜多輝、新海元、矢代晴実、和泉信之、加藤研一、松田隆、年縄巧、
横井俊明、富田孝史、久田嘉章、古屋治、鳥井信吾、境茂樹、
田村敬一、塚本良道

(監 事) 田蔵隆、五十嵐克哉

(欠 席) 清野純史

オブザーバー出席 : 嶋原毅事務局長、吹野美絵

D. 提出資料

- 資料 05-01 第4回理事会議事録確認(新海理事)
- 資料 05-02 会務報告(福喜多理事)
- 資料 05-03 会計報告(福喜多理事)
- 資料 05-04 メール審議の結果について(新海理事)
- 資料 05-05 2013年日本地震工学会年次大会、国際シンポジウム速報(古屋理事、清野理事)
- 資料 05-06 刊行規程について(新海理事)
- 資料 05-07 入退会者(加藤理事)
- 資料 05-08 共催・後援・協賛等(新海理事)
- 資料 05-09 業務執行理事規程(福喜多理事)
- 資料 05-10 選挙規程の改定(加藤理事)
- 資料 05-11 委員会委員の委嘱(事業企画委員会WG、IAEE事務局支援委員会)(新海理事)
- 資料 05-12 東日本大震災報告書販売に関する丸善との契約について(福喜多理事)
- 資料 05-13 学会財政について(矢代理事、和泉理事)
- 資料 05-14 会員制度の見直しについて(加藤理事、松田理事)
- 資料 05-15 選挙管理委員会からの報告(次期会長選挙)(加藤理事)
- 資料 05-16 将来構想委員会からの報告(当麻副会長)
- 資料 05-17 日本学術会議「南海トラフ地震に学会はいかに向き合うべきか」シンポジウム発表内容について(当麻副会長)
- 資料 05-18 事業企画委員会からの報告(鳥井理事)
- 資料 05-19 研究委員会講演会・震災予防講演会について(福和副会長、境理事)
- 資料 05-20 国際委員会からの報告(活動内容)(横井理事)

- 資料 05-21 会誌編集委員会からの報告（久田理事）
- 資料 05-22 論文集編集委員会からの報告（年縄理事）
- 資料 05-23 今後のスケジュールについて（福喜多理事）
- 追加資料 「17WCEE 招致委員会」の設置提案（山崎副会長）

E. 議題

E 1. 報告事項

1) 議事録確認 第 4 回理事会議事録確認（新海理事、資料 05-01）

新海理事より資料 05-01 を用いて、「第 4 回理事会議事録」について説明があり、本内容にて了承された。

2) 会務報告（福喜多理事、資料 05-02）

福喜多理事より、資料 05-02 を用いて、9 月 18 日～11 月 13 日までの「会務報告」がされた。

3) 会計報告（矢代理事、資料 05-03）

矢代理事より資料 05-03 を用いて、5 月 1 日～10 月 31 日までの「会計報告」がされた。

4) メール審議の結果について（新海理事、資料 05-04）

新海理事より、資料 05-04 を用いて、10 月 15 日に発議された「理論応用力学講演会コンタクト委員」及び「平成 24 年度研究委員会報告会開催」のメール審議結果の報告がされた。

5) 2013 年日本地震工学会年次大会、国際シンポジウム速報（古屋理事、清野理事、資料 05-05）

古屋理事より資料 05-05 を用いて、11 月 11 日、12 日に開催された「2013 年日本地震工学会年次大会」の参加者は正会員 300 名、非会員 30 名、学生会員 70 名、非学生会員 8 名の計 408 名、交流会には 60 名の参加との報告があった。

年次大会の技術フェアに出展の 10 社に対して JAEE からお礼状出すことが確認された。

国際シンポジウムは、昨年より出席者は多かったが、アブストラクト申込 34 編、シンポジウム掲載論文 29 編と昨年より半減。申込数を増やすためには、開催に関する早めの広報が必要であるとの報告がされた。

次年度は JEES シンポジウム開催と重なるので、JEES シンポジウムのオーガナイズドセッションの一つとして JAEE 国際シンポジウムを開催するのが良いとの意見があった。本内容について、国際シンポジウム担当の清野理事に JEES 実行委員会が確認をすることとなった。

6) 刊行規程について（新海理事、資料 05-06）

新海理事より資料 05-06 を用いて、JAEE の刊行規程についての説明があり、「査読は刊行物を出版しようとする委員会が実施する」、「事業企画委員会は JAEE 刊行物として扱うことが適切

であるかを確認する」ことが報告された。

E 2. 議 案

7) 入退会者（加藤理事、資料 05-07）

加藤理事より資料 05-07 を用いて、「入退会者」の報告がされ、2013 年 11 月 13 日現在、入会者は正会員 17 名、学生会員 34 名との報告があり、承認された。

以上の結果、会員数は、名誉会員 28 名、正会員 1,133 名、学生会員 157 名で、現在総数は 1,318 名、法人会員 93 社となることが確認された。

8) 共催・後援・協賛等（新海理事、資料 05-08）

新海理事より資料 05-08 を用いて、以下に示す後援(2 件)、協賛(1 件)の報告があり、承認された。

後援依頼：「震災対策技術展」横浜

(主催：「震災対策技術展」横浜 実行委員会)

後援依頼：講習会「長周期地震動と超高層建物の対応策「専門家として知っておきたいこと」

(主催：日本建築学会)

協賛依頼：「地震防災フォーラム 2014」

(主催：関西地震観測研究協議会)

9) 業務執行理事規程（福喜多理事、資料 05-09）

福喜多理事より資料 05-09 を用いて、「業務執行理事の職務権限規程(案)」の説明がされ、以下の内容について了承された。

- ・業務執行理事報告を理事会の議題に入れ、職務権限規程に基づいて職務を執行していることを理事会にて確認し、それを議事録に記録することで業務執行理事報告とする（今年度 6 月～11 月分は 12 月理事会、12 月～2 月分は 3 月の理事会にて確認）。

なお、引き続き事務局側にて以下の内容について整理することとなった。

- ・「成年後見人」「法人後見」の定義を確認
- ・稟議書、決算書、支出伝票等、支出に関わるフォーマット作成
- ・権限移譲を含めた業務フローの作成
- ・印鑑保管規程(案)の作成
- ・契約や経理に関する金額の上限設定有無

10) 選挙規程の改定（加藤理事、資料 05-10）

加藤理事より資料 05-10 を用いて、「選挙規程の改定」について説明がされ、「当選者だけでなく、落選者にも速やかに選挙結果を書面によって通知する」に変更することが承認された。

また、この内容を反映させた選挙規程第 20 条の改訂案を、2014 年 3 月の理事会に諮ることが

確認された。

11) 委員会委員の委嘱(事業企画委員会WG、IAEE事務局支援委員会)(新海理事、資料 05-11)

新海理事より資料 05-11 を用いて、「委員会委員の委嘱(事業企画委員会委員、災害予防講演会WG、E-ディフェンス見学会WG、IAEE事務局支援委員会)」について説明がされ、委員会委員の委嘱が承認された。

12) 東日本大震災報告書販売に関する丸善との契約について(福喜多理事、資料 05-12)

福喜多理事より資料 05-12 を用いて、東日本大震災報告書販売に関する丸善との契約について説明がされ、発行書籍の販売に関して丸善から提案された原案の内容で承認された。

E 3. 懇談事項

13) 学会財政について(矢代理事、和泉理事、資料 05-13)

矢代理事より資料 05-13 を用いて、今年度の学会財政状況について以下の説明があった。

- ・今年度の当初計画と決算見通しの差異は、収入で▲300 万円(東日本報告書 DVD▲200 万、事業企画▲100 万)、支出で会誌が+100 万円と予測される。
- ・従って、前年度の繰越金 300 万円を充てても差引で▲100 万円の赤字となる。
- ・安定した学会運営を行う上で、適正な現金(キャッシュフロー)をもっていなければならない。

上記内容を踏まえ、11 月末時点の収支から年度決算の見通しを立てることが了承され、12 月理事会で検討結果を報告することになった。

14) 会員制度の見直しについて(加藤理事、松田理事、資料 05-14)

加藤理事より資料 05-14 を用いて、「会員制度見直し」について説明がされ、現状の学生会員、正会員に加え、新たにジュニア会員、シニア会員、準会員(いずれも仮称)の計 5 種別を設定する旨の説明がされた。

これに対して以下の内容が確認された。

- ・準会員制度は前回理事会で意見のあった「ある程度の業務や研究経験を積んだ 30~40 歳台をターゲットとした方策」にも合致しており、幅広い年齢層を補間するものとして有効と思われる。
- ・これまでの理事会議論も踏まえ、提案のあった 5 種別の会員設置案で検討を進める。
- ・12 月理事会までに、現在の正会員の 20 歳台や 60 歳台が新たに設置するジュニア会員やシニア会員に移行した場合の学会収入に与える影響についてシミュレーションを会員部会にて実施し、収入の減少を評価する。
- ・新会員種別を設置する場合は、定款の変更ではなく、会員に関する各種規程の見直しで対応できるかどうかも含め検討を行い、変更案を会員部会、総務部会、事務局にて作成する。

15) 選挙管理委員会からの報告（次期会長候補選挙）（加藤理事、資料 05-15）

加藤理事より資料 05-15 を用いて、次期「会長候補」選挙について以下の報告があった。

- ・会長候補者：目黒 公郎 氏
 ：和田 章 氏
- ・投票期限 ：2013 年 12 月 31 日(火)

16) 将来構想委員会からの報告（当麻副会長、資料 05-16）

当麻副会長より資料 05-16 を用いて、今後の具体的な活動の方向性について説明があり、分野交流・人材交流のモデルケースとして分野横断的な若手研究会の立上げを計画しており、第一回会合を 12 月に開催する予定であることが報告された。

17) 日本学術会議「南海トラフ地震に学会はいかに向き合うべきか」シンポジウム発表内容について（当麻副会長、資料 05-17）

当麻副会長より資料 05-17 を用いて、シンポジウムで発表する「大震災の教訓を南海トラフ地震対策に活かす」の講演内容について紹介がされた。

18) 事業企画委員会からの報告（鳥井理事、資料 05-18）

鳥井理事より資料 05-18 を用いて、南海トラフ広域地震防災研究プロジェクトの地域研究会との連携、マスコミとの交流の深化、講演会や見学会に関する H25~26 年度の活動計画、並びに事業企画委員会の運営体制の報告がされた。

19) 研究委員会講演会・震災予防講演会について（福和副会長、境理事、資料 05-19）

福和副会長、境理事より資料 05-19 を用いて、2014 年 2 月 7 日（金）パシフィコ横浜で開催される「命を守る避難の課題 講演会（研究委員会）」「第 4 回震災予防講演会 人と自然と歴史に学ぶ防災論ー楽しく学び賢く防ぐー」について、それぞれのプログラム内容と収支予算書についての説明があり、了承された。

なお、両講演会には多くの人が集まることが予想されるので、日本地震工学会を紹介するチラシ（A4 版 1 枚）を配布できるように加藤理事が準備することが確認された。

20) 国際委員会からの報告（活動内容）（横井理事、資料 05-20）

横井理事より資料 05-20 を用いて、今後の外国人の会員増強に向け、第二回国際シンポジウムに出席した外国人に対してアンケートを実施したこと、アンケート結果を踏まえて外国人の入会方策について検討を行いたいとの報告がされた。

会員ターゲットとして考えているのは日本に留学している外国人であり、帰国後も日本との繋がりを継続してもらうことが重要であることから、海外会員枠の新設、特典、会費について検討すること、英文論文集が近々発刊されることをアナウンスすることが確認された。

21) 会誌編集委員会からの報告（久田理事、資料 05-21）

久田理事より資料 05-21 を用いて、会誌 21 号の進捗状況の報告がされ、以下の内容を追加することが確認された。

- ・（故）佐伯光昭氏への追悼文
- ・ JAEE の地震被害調査活動の紹介（若手研究者への PR、地震災害積立金）
- ・ 将来構想委員会で 12 月に企画している分野横断的な若手研究会の懇談内容

また、国立国会図書館から、現在一般公開している本学会・会誌をオンライン資料として提供してほしいとの依頼があり、特に問題なしとして回答したとの説明がされた。

22) 論文集編集委員会からの報告（年縄理事、資料 05-22）

年縄理事より資料 05-22 を用いて、英文論文集に向けての進め方について報告がされ、以下の内容が確認された。

- ・ 英文化してよい対象はどこまでにするか（例、海外ジャーナルに発表した論文は認めない、他）のルールは論文集編集委員会で検討し、決定する。
- ・ 日本地震工学会論文集に既掲載の和文論文は全て査読を実施済みのもので、全てを英文化の対象とし、過去 1 年の論文著者に英文化の依頼をする。
- ・ 英文オリジナルの論文も同時に募集する。
- ・ オリジナル論文と和文論文の英文化は違いがわかるように区別をする。
- ・ 英文論文集の投稿料は論文を増やしたい意向もあるため、2 年間は無料とする。

23) 今後のスケジュールについて（福喜多理事、資料 05-23）

福喜多理事より資料 05-23 を用いて、「今後のスケジュール」について説明がされた。

24) 「17WCEE 招致委員会」の設置提案（山崎副会長、追加資料）

山崎副会長より追加資料を用いて、「17WCEE 招致委員会」設置について提案がされ、名称、活動期間、目的、活動内容、委員会メンバーが確認された。

また、本委員会の活動費は、JAEE 日本地震工学シンポジウム積立金を活用することとなった。

次回予定：平成 25 年 12 月 18 日 理事会 17：00 より

（場所：建築会館）

記録担当：総務理事 新海 元